

石クリ通信

4月号

おちんちんをきれいに

院長 石川 悟

陰部の病気や異常に関しては、なかなか相談しにくく、一人で悩んでいることも多いようです。小児期にはペニスの包皮が亀頭を覆っていて、反転できずに上手く洗うことができないために、先が赤く腫れて、痛みを訴える「亀頭包皮炎」がよくあります。抗生物質の内服や軟膏で治療をします。

成人でも、包皮が赤く腫れあがって、ところどころ表面が縦に裂けている状態で来院する人がいます。ほとんどが未治療の糖尿病で、尿検査で糖4+です。血糖のコントロールが必要で、数年前から処方されるようになったSGLT2阻害薬という糖尿病の薬があります。腎の尿管では尿から糖分を再吸収するのですが、これを阻害し、血液中の糖を尿中に排泄させて、血糖を下げようとする薬です。糖尿病だけでなく、最近では心不全でも使われるようになりました。この薬を飲んでいる人は尿中の糖分が異常に高いので、排尿後にペニスの先にわずかで尿が付着すると細菌感染による炎症を起こします。細菌が尿中の窒素成分を分解、アンモニアを作るため、アンモニアによる刺激も皮膚の障害をひどくします。

いちご狩り
事務 吉田 政子

とちあいかという品種の苺がとても美味しいらしいと耳にしたので、いつもスーパーで買ってきた苺を大喜びで食べている孫たちが、自分で摘んだ苺を食べるという体験を楽しんで欲しいと、いちご狩り行ってきました。

ビニールハウスに入ると、一面に広がる苺畑の苺に大喜びで、苺の花は白くて小さいとか、黄緑色から徐々に真っ赤な苺になるんだとか、へたの部分までほんのり赤くなっている苺が甘いかか観察しながら摘み取り、甘くて美味しいとうれしそうに食べてました。その後、満腹になったのか私にたくさん摘んで来てくれました。甘みと程良い酸味が詰まっていて、甘み堪能して帰ってきました。



ベジメーター 看護師 太田 小百合

先日埼玉で開催された農場見学会で「ベジメーター」というものに出会いました。LED白色を指先に十秒間照射するだけで、簡単に野菜摂取状況を評価してくれる装置です。野菜をたくさん食べるようにはしていますが、「実際に足りているのか? 効果はあるのか?」など実感がわかないため、食習慣の改善にはつながっていません。このベジメーターは、野菜不足の状況を数値化(見える化)してくれるので、食生活の改善につながるのではないかと期待しています。皆さんもベジメーターを見つけたら一度測定してみてください。

夢占い 看護師 澤田 彰子

いつも起きた時には見た夢の事は忘れていたのにここ最近同じような夢を見るので夢占いで調べてみたら、健康を損なうとありました。気に掛けてはいましたが先月コロナに感染してしまいました。夢占いの中でした。

手放せません 事務 森 多加子

コロナウイルス感染症がインフルエンザと同じ5類に移行され、街でもマスクを着用せずに歩いている人を多く見かけるようになりました。マスクは表情を隠してしまったり、ちよつと苦しかったり、出来れば着用したくありません。けれど、まだまだ油断は禁物です。東京では「ほしか」も流行っているそうです。周りの方の為に、自分の為にも、もう少しマスクは手放せません。皆さんもご来院の際はマスクの着用にご協力お願いします。

若い市長さん 庶務・ウェブ担当 石川 香

広島県安芸高田市の石丸市長、民間から市長になり、さまざま斬新な改革や、議会との対立などで、注目をあび、一躍有名になりました。同世代の地方議会に関わる者として、見ていて気持ちのいい程、新しいことを取り入れてくれていてます。X(旧Twitter)のフォローは29万人で、このように若者が政治に興味を持ってくれるのは非常に喜ばしいことだと思います。先日、『アキタカタ Meet-up オンライン#15』のYoutube Liveに同じく同世代の女性市長、高知市の内藤佐和子さんが出演し、「石丸くん」「さわちゃん」と呼び合い、ざつくばらんに雑談したり、地方議会のあれこれ話していただきました。面白いので、ぜひ見てみてください。内藤市長は、4月で任期が終了で、残念でなりません、今後違った形での活躍に期待したいです。

つつじ山 事務長 石川 都

最近御岩神社がパワースポットとして人気だが、個人的にはここも優るに劣らないすごいパワースポットだと思うのが、ひたちなかの「つつじ山」、地元の人々が「無縁様」とよぶ無縁塚である。

そこはひたちなか市東大島、常磐線の勝田車両センターから線路を挟んだ向かい側にある。電車を使う友人が、電車から見える赤いぼつぼつは何か? と思つていたら、それが参拝の善男善女手作りの赤い帽子や前掛けをつけているので、遠くからでもよく目立つ。

境内の立札によると、ここは、寛永十五年(一六三八)に行倒れの旅人熊吉を地元の人がねんごろに弔い、そこに植えられたつつじが信仰の対象となつたとのこと。境内の真ん中にはご神木のつつじがあり、毎月二八日が縁日で屋台も出るが、普通の日でも参拝者は途切れず、線香の煙も絶えることはない。普段は地主が境内の手入れをしているそうで、近くには線香や絵馬を売る店もある。隣は公園で数年前までは雑木林に囲まれていたが、最近周囲にスーパーもでき、樹々が伐採されてしまつてがっかりした。

この知る人ぞ知る「つつじ神様」は、霊験あらたかと日立でも昔から有名で、亡き義母も子や孫の願掛けに、電車やバスを乗り継いでお参りしていた。私もひたちなかの葛屋に行く時によく立ち寄るが、百人以上のお地藏様に順に手を合わせお線香を置いて回る人を見ると、こういう身近な地元の聖地が古来から人々の心を支えて来たのだなあ、としみじみ思う。

亡き姉の思い出 看護助手 柴田 さち子

私は男三人女二人の、五人兄弟の末っ子です。家は理髪店をやっていたので、店が忙しい時には、姉は私の面倒を見ることになり、私を背中におんぶして遊びに行きました。当時はまだ車も少なかったため、家の前の道路で、缶蹴りや縄跳び、鬼ごっこなどで暗くなるまで遊んでいました。姉は、さっちゃんをおんぶしていたから私は背が伸びなかった...といつも言っていました。四歳上のその姉が、三月七日に他界しました。まだまだ元気でいて欲しかったです。一人また一人と兄弟が亡くなつてゆくのは淋しい限りです。お姉さん、今までありがとう!

